問題：なぜ **高齢者のための「使いやすさ」** か

健康で独立した生計を営む
高齢者についても，便利かつ豊かな
生活を保証し，支援していきたい

背景
・高齢者支援の低コストでの実現
とそのためのICT利用化
-高齢者/世帯数の急激増加
-支援の社会資源　枯渇
・社会全体，日常生活の情報化
⇒ **使わない人は相対的に「不便化」**

ICT機器は
使わない/使えない
高齢者の存在
なぜ？

CUAR/みんらぼで，
「高齢者にとっての使いやすさ」解明と実現支援

高齢者にとって使いやすいモノづくり／
システムづくりができる社会へ！

解決のための方法：

高齢者による使いやすさ検証実践センター
Center for Usability and Aging Research
(CUAR)
「みんなの使いやすさラボ」 略称 **「みんラボ」**

みんラボ ＝

- いつでも参加活動できる地域での活動拠点
  ← **地域高齢者にとって**
- いつでも施設&潜在的パネラーを利用可能な資源
  ← **メーカーorサービス提供者にとって**
- 高齢者の認知と使いやすさの研究拠点
  ← **研究者にとって**

みんラボ
みんなの使いやすさラボ
Center for Usability and Aging Research

高齢者にとっての「使いやすさ」：
認知的加齢とデザインの良否の二面性

効率の良い
使いやすさ検証・可！

ユーザインタフェースとしての問題点は，参加者群で共通
（悪いデザインは誰にとっても悪い）
ユニヴァーサルデザイン原理を支持

若年成人，「インスタント高齢者」と
実際の高齢者との大きな相違
認知的加齢の影響を明示

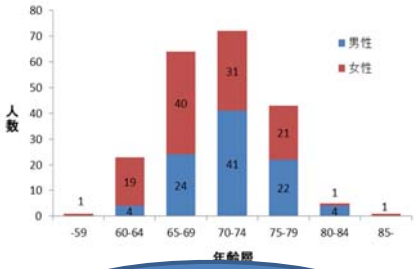
「使いやすさとは何か」
研究の要点

地域在住高齢者が，参加者登録するデータベースを構築.

社会貢献として
の参加を！

- 地域在住の高齢者
- ボランタリな活動
- 「モノの使いやすさを検証・研究する」活動への参加を承認

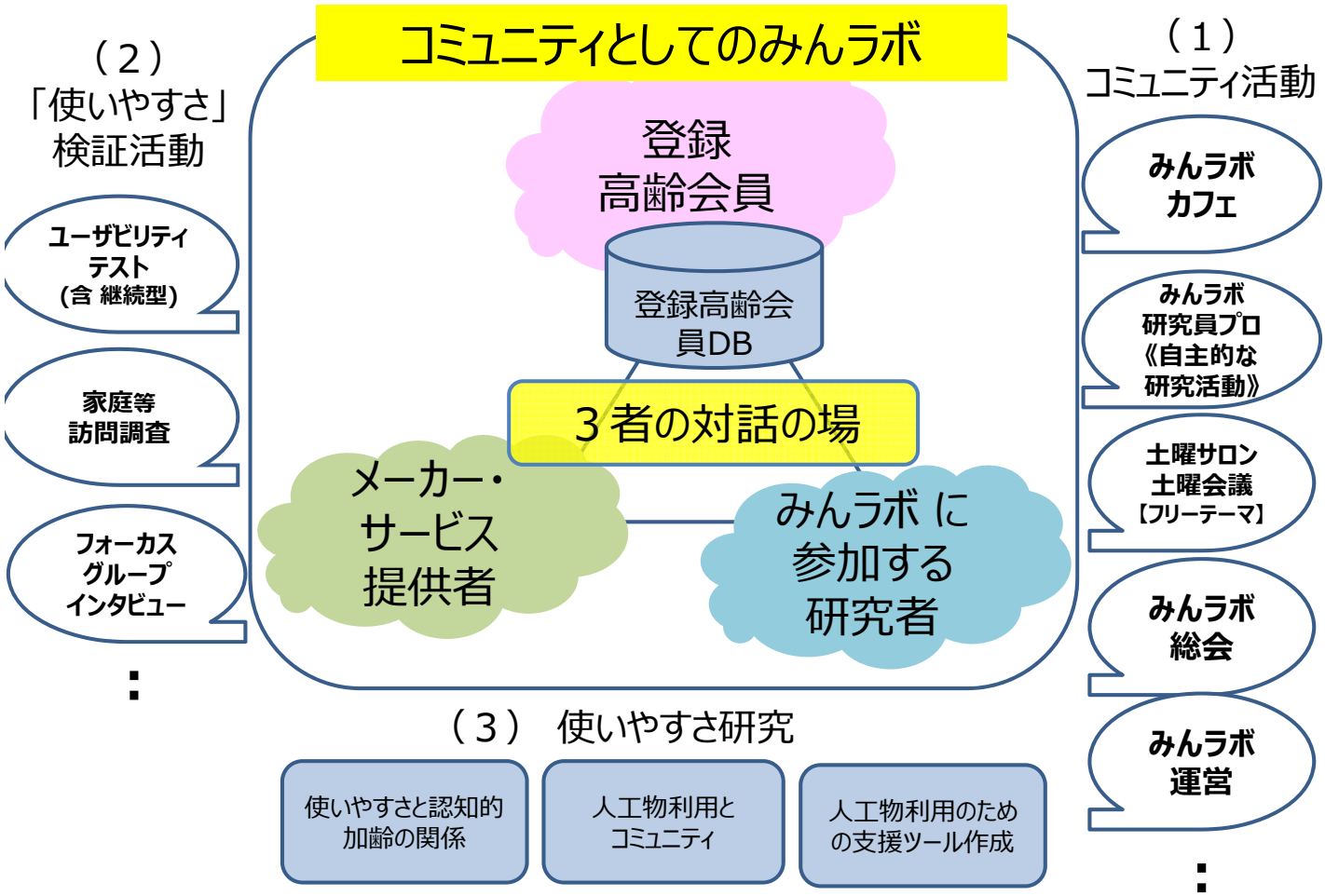
データベース登録
（一人1時間程度）



みんラボ
参加登録者
データベース

１人当り およそ200項目

- プロフィール項目
- モノ利用経験，主観評価
- 健康状態，認知的機能



成果：新しい形の「使いやすさ検証・研究」活動

「つくば型リビングラボ」(仮称)

プロジェクトとしての成果：

産・学・地域住民のコミュニティに基づく新たな形の創出

■ 新規性・独創性

1) 継続性・自発性を持って**社会貢献**意識をもって参加する**高齢者**の存在が，本質的かつ良質なデータ収集を可能にする

2) 常に**検証・研究を同時に進めていく使いやすさ検証活動**が**地域に密着した高齢ユーザの生活背景を視野に含めて**行われる⇒一般性の高い「よりよいモノづくり」に直結した使いやすさ検証・研究

コミュニティに基盤をおき，信頼性・妥当性・中立性の高い，日常的な文脈の中での精査を可能にする

IADUアウォード2014で**金賞**受賞
(ソーシャルデザイン部門)

(講評)　(前略)

当初は「高齢社会のために，いかに使いやすさを実証し，使いやすいモノづくりを実現するか」に重点が置かれていましたが、その後、メーカーや研究者 と協力できる参照・専門家コミュニティへと拡大されました。

(中略)

審査員は、この取り組みが加齢に関する研究と使いやすさ試験研究において、**高齢者を研究対象として扱うのではなく、パートナーとして積極的に参加を得たことを称賛しました。**審査員は、筑波に蓄積されてゆくデータベースが、このような要因の、そして加齢に伴う能力の変化についての重要な長期的研究の可能性を開くと考えました。

コミュニティ活動：「みんラボカフェ」

月1回程度のミニワークショップ

話題提供40-50分　＋　議論全体90分程度

「モノを作る側の話を聴いて議論する場」

データベース登録者　10～30名

「みんラボ研究員プロジェクト」

「使いやすい大学病院を考える」

・継続型ワークショップ／自由参加・メンバー固定

・3か月間，約10回

・現場観察，インタビュー，分析，報告

「みんラボ総会」

全登録会員＋検証活動参加

企業＋研究者が参加

みんラボをどう運営していくか？

年1 - 2回

「高齢者にとっての使いやすさ」研究

◆人工物利用支援ツール研究班

みんラボの研究を支援するツールの開発・提供

・家電製品の**利用ログ**を検出，蓄積，分析するツール

「押下圧力の分析」

・機器利用支援する**コミュニケーションツール**

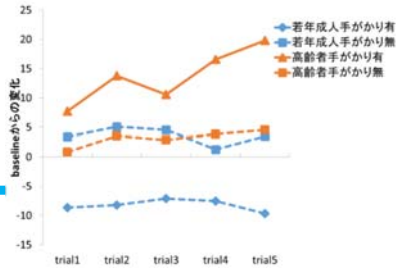
◆認知的高齢化と使いやすさ研究班

GMLT学習過程実験＋連続血圧測定

「怖がり」特性 ＋ 制御焦点」研究

潜在的態度

：



◆人工物利用とコミュニティ研究班

・みんラボ研究員プロジェクト

・既存コミュニティでの人工物利用使うことへの抵抗感研究

使いやすさ検証活動：みんラボ・コンソーシアム

◆高齢登録者のデータを**一方的に「利用する」**立場のものを作ってはいけない．

みんラボの「考え方」を共有してもらえる方だけに使いやすさ検証事業の資源を使ってもらいたい．

・研究会・講習会　・研究発表会

⇒ **「コンソーシアム」の立ち上げ**

◆「使いやすさ」と「高齢社会」について，共に考える場

＝ 目指す コミュニティは

「三者が集い，相互に学んでいく場所」

高齢者　＋大学院生/大学生/研究者

＋メーカー&サービス提供者

使いやすさ検証 例：食品包装の開けやすさ

みんラボカフェ

生活者の視点での
自由な討論

家庭訪問調査

実際の生活の場での利用から見えてきた問題点

ユーザビリティ・テスト

より明確な要因を明らかにするテスティング

・データベースから適切な対象者の抽出
・若年成人(大学生)との比較

みんラボのコミュニティ

高齢者メンバー

ボランティア参加

登録高齢会員，モノづくりを行うコンソーシアム会員，研究者の三者が，共に学び、新たな価値を創造できるコミュニティ

みんラボ コミュニティ活動

使いやすさ 検証活動

使いやすさ 研究活動

みんラボの活動

参加・委託・実施

みんラボコンソーシアム

企業・団体会員

研究者会員

みんラボ研究グループ

超高齢社会における3つのアプローチによる「使いやすさ」研究

・認知的加齢化と使いやすさ研究（認知心理学）
・人工物研究支援ツールグループ（システム情報工学
・人工物利用とコミュニティ研究グループ（文化・学習心理学）